

ASK ニュース

2015年11月30日(月)
担当：MS事業部 三宮

〒460-0002 名古屋市中区丸の内3-22-21 損保ジャパン名古屋ビル1F
ASK 税理士法人 TEL 052-971-1122 FAX 052-971-4488

インフレを考える。

はじめに

ご存じのとおり、最近までの日本は、デフレの時代でした。デフレというのは、貨幣価値の上昇を意味しており、相対的に物価が下落をするということです。

ですから、極端な話、デフレ状況では、勝手に物価が下がるので何もしなくても貨幣価値は相対的に上がるということです。

よって、今年の1万円より来年の1万円の方が価値が上昇するという状況でした。

一方、インフレになると何もせず預金のまま眠らせておくと貨幣価値はだんだんと目減りしていくということになります。

インフレは悪か？

これは、貨幣価値が目減りするの嫌だ。インフレは困るからずっとデフレなら良いのにとという短絡的な話ではありません。物価が下落するということは、企業の利益が上がらないということです。企業の利益が上がらなければ社員の給料にも跳ね返ります。よって、適度なインフレがないと経済は上手くいかないのです。

今後の日本経済はインフレに必ず傾きます。

インフレ状態における資産運用

いずれやってくるであろうインフレ経済下において、最もやってはいけない資産運用は、現金

を保有し続けることです。

仮にインフレ率2%であるならば、1年後にその保有している預金の実質的価値は、98%にまで減退してしまいます。

よって、インフレ経済化において、保有する資産は、ある一定以上の利回りで資産運用をしていかなければ目減りをしていくこととなります。

インフレに強い資産

インフレに強い資産として以下の3つが挙げられます。

①株式 ②外貨 ③現物資産

どれも現金以外の資産なので当たり前と言えば当たり前です。

①の株式は、ある程度のインフレであれば、企業の業績が上がりその結果株価も上がるはずなのでインフレに強いと言われていています。

②の外貨も円の価値が相対的に下がった時、逆に外貨は値上がりすることになるのでインフレ対策としては有効です。

③の現物資産とは、金や不動産などです。インフレとは物価の価値が相対的に上がることなので当然です。

おわりに

日本人は、あまり日本のリスクを考えていない人が多いように思います。

資産運用の基本は分散投資です。資産が現金のみのリスクをもっと真剣に考えるべきではないでしょうか。